

特別寄稿

ようやくにして開業した九州新幹線の特徴

理事長

樺木 武

1. 肅々と開業

3月11日、東北地方太平洋沖大地震が発生した。マグニチュード9.0、最大震度7はわが国観測史上最大といわれているが、これに追い打ちをかけたのが想像を絶する規模の津波発生である。また、福島第一原子力発電所の全交流電源喪失と建物内の水素爆発である。報道では被害の大きさや広がりから東北関東大震災、さらには東日本大震災とも称され、わが国最大の惨事となった。

そして、その翌日の3月12日に九州新幹線が全線開業した。当然ながら、各駅での開業式典や出発式などの祝賀行事は取りやめとなり、「粛々と役割を果たす」との決意を表明するスタートであった。JR九州の発表によれば、開業後3日間の乗車数は博多—熊本駅間で64,000人、熊本—鹿児島中央駅間で40,000人であり、昨年同期に比較すれば21%、61%の増加である。全体でみて予測を15%ほど下回るものの、東北新幹線の運休、東海道新幹線の間引き運転となった未曾有の惨事である大震災の影響を差し引けば、予測どおりあるいはそれを上回るスタートとみてよい。

2. 九州新幹線の特徴

ところで、九州新幹線の全線開業は、最初の東海道新幹線開業からすれば47年、山陽新幹線博多駅乗り入れからしても36年が経過しての悲願達成である。あるいは、フル規格の新幹線でみれば我が国で6つ目の開業であり、最高速度は260 km/hにとどまる。これらから、九州新幹線は最先端であるとはいえず、また、21世紀に入り国内外で急速に進む高速鉄道時代において珍しいものでない。

しかし、そうした中で九州新幹線の特徴を拾いあげれば、特に次の3点が指摘できる。1つは斬新なデザインの車両である。青白磁色のN700系(みずほ、さくら)、乳白色の800系(つばめ)の2タイプを楽しむことができ、それぞれで異なる外観と和の内装は、先行する新幹線に決して劣るものでない。むしろ、半世紀にわたりわが国で発達し蓄積してきた新幹線技術の粋を集めた車両の出現であるといってもよく、後発のメリットである。

2つ目は、九州新幹線257kmの延長において12の駅があり、平均駅間距離が23kmであることである。我が国のフル規格新幹線の平均駅間距離が23～36kmであることからすれば、駅間距離が短く、それだけ利用者に身近であり便利であるといえよう。加えて、12の各駅は全体としてユニバーサルデザインを強く配慮し、段差の解消や使いやすいエレベータの配置、多目的室や多目的トイレの設置などで人に優しい駅になっている。その上で、一つ一つの駅がデザイン・コンセプトを異にしている。熊本駅が熊本城をイメージして城門や白・黒の配色をベースにデザインするならば、新玉名駅は木立がモチーフとなっている。また、風をイメージし外装を前面に取り入れた新大牟田駅、全国でも珍しい公園の中の開放感ある筑後船小屋駅、坂本繁二郎・青木繁という画家を生んだことから芸術性を重視したスタンドグラスとアーチの自由通路を持つ久留米駅、鳥巢にちなみS字型の骨格を強調した鳥栖駅がある。駅周辺を散策しながらこうした各駅を一つ一つ訪ね思いにふけることも旅の楽しみの1つになるであろう。



写真1 N700系車両とそのグリーン席



写真2大屋根をもつ駅広場に面したJR博多シティと鹿児島中央駅



3つ目は、JR博多シティの誕生である。鉄道線路をまたいだ延べ床面積20万㎡の建物は九州最大であり、わが国でも有数の規模である。国内外から多様な商店が結集した商業施設や文化施設とともに、多くの人々が描いた木の葉によるタイル張りの柱や壁面のデザイン、“ひと”が主役の駅前広場、大屋根、オープンテラスなど豊富な話題がある。

オープン後13日間の平均来客数は平均26万人/日とのことであり、天神地区に匹敵する大きな賑わいをみせている。本格的なツイン都心の形成であるが、ゆくゆくは多くの人々が博多・天神両地区を行きかうアレイ構造の都心となることを期待したい。そして、このことは熊本にしても、鹿児島にしても同じことである。

なお、博多駅ではJR博多シティに加えて、今一つの話題として吉塚駅よりあるガード下の歩行者通路の改修がある。ガード下は、どうかすると薄暗い、汚いといったイメージであるが、壁面、天井を張り、照明を明るくした建物内通路の感覚で改装が図られた。こうした改装はおそらく全国初といってもよい。これで筑紫口、博多口を安心して、快適に往來することができる。

3. “心は一つ、地域は多彩” な九州

上述のほかにも、先行開業した新八代駅から鹿児島中央駅までの各駅のデザインや駅前広場があり、車両基地にしては珍しいモダンな熊本総合基地がある。あるいは、各駅で新幹線開業にむけた地場産品の開発や地域ごとのもてなしのバラエティがある。要するに、従来、“九州はばらばら”と言われてきたが、九州新幹線開業によって、“心は一つ、九州は多彩”に生まれ変わったともいえる。つばめ、さくら、みずほと南からやってきた九州新幹線とともに新しい九州の旅を楽しもう。

写真3 博多駅高架下(吉塚駅方)の歩行者通路

—改装前と改装後— →

